

二〇二三年度 安田女子高等学校 入学試験問題

国語

一

次の小説を読んで、後の問いに答えなさい。

楓^{かえで}は高校一年生。近所で偶然見つけた弓道場に五月から通い始めてまだ間がない。同じ弓道場に通う高校三年生の乙矢^{いっや}は、段級審査で参段^{さんだん}に挑戦し、自信があったにもかかわらず、不合格だった。ある日、楓が弓道会で誰からも一目置かれている国枝という老人に弓道を教えてもらおうとしていると、そこに乙矢が現れ、国枝に「僕の射を見てほしいんです」と切迫した調子で頼んだ。国枝は了承し、三人での練習が始まった。

「せっかく三人いるんだから、審査の動きでやりましょう」

乙矢は少し驚いたようだったが、「はい」とうなずいた。

「1立ち位置はどうしましょう？」

乙矢が尋ねる。

「あなたに *おおまえ 大前をやってもらって、私が落ちでいいですか？」

「はい」

乙矢が同意した。楓は真ん中に立つ。大前のタイミングに合わせていいので、真ん中は気楽だ。日頃の練習でも、いちばん経験の浅い人間が真ん中に、いちばん格上の人間が落ち、つまりいちばん後ろを a ツトめることが多い。

そして、射場の隅に三人で立つ。乙矢の背中が目の前にある。背筋がぴんと伸びて、きれいな立ち姿だ。お辞儀をして入場をする。乙矢は楓より背が高いので、その分歩幅も広い。楓はいつも少し速いテンポで歩く。楓はまだ はかま 袴の扱いに慣れていないので、座ったり立ったりするタイミングが少し遅れ気味だ。そして、*きざ 跪坐の姿勢を取ると、後ろから立っている乙矢を見る。乙矢の身体には力がみなぎっている。その目は楓の位置からは見えないが、きつと視線は怖いほど鋭く、的をにらんでいるのだろう。いつもそうであるように。

乙矢の射は力強く、一直線での あた 中だった。続く楓の射は三時の方向に矢が逸れた。国枝は力みなく真ん中に あ 中てる。二射目も同様に、乙矢と国枝は的中で、楓だけ大きく外した。

退場して * 矢取りをして戻って来ると、乙矢が待ち構えたように国枝に尋ねた。

「どうでしたか？」

はやる乙矢を、まあまあ、というように国枝は制した。

「私より先に、このお嬢さんに感想を聞いてみましょう。この前、ふたりでやった時と比べて、どうでしたか？」

「あの時はふたりだったし、立ち順も違うので、単純な比較は難しいんですけど」

いきなり話を振られて、2 楓は少し口ごもった。何と言えば、乙矢のことをうまく表現できるだろう。

「今回は、二番目だったので、大前に合わせなきゃ、ということを考えて、ちよつと あせ 焦りました。歩幅が違うので、早く歩かなきゃいけないし。前は自分が大前だったので、自分のペースでできたんですが」

乙矢の顔がさつと b クモった。何か自分はまずいことを言っただろうか、と楓は思う。

「乙矢くんの射についてはどう思いましたか？」

「カッコよかったです。的を絶対外さない、という気迫を感じました」

楓は乙矢をフォローしたつもりだったが、乙矢の顔はさらに歪^{ゆが}んだ。逆効果だったようだ。

「わかりましたね。このお嬢さんが、3 あなたの射の欠点をみごとに見抜いている」

「はい」

乙矢が力なくうなだれる。楓には、訳がわからない。

「あなたは何をそんなに焦っているのですか？　それが射に表れている」
「焦っている……？」

「審査当日の射を見てないので、これはあくまで私の考えですが」

国枝は優しい目で乙矢を見ながら、一語一語言葉を選ぶようにゆっくり語った。

「あなたの射型はきれいだし、的中もする。参段なら合格にしてもよかったかもしれない。だけど、若い方には正しい射を身に付けてほしい、という思いが我々先人にはあるんです。だから、あえて厳しくみる、そういうことだったのかもしれない」

⁴ 国枝の言葉を噛みしめるように、乙矢は視線を下に向けている。

「問われているのは技術ではなく、弓に向かう姿勢ではないでしょうか」

「弓に向かう姿勢……」

乙矢は深い溜め息を吐いた。

「ありがとうございます。もっと精進いたします」

精進なんて古い言葉、よく使えるなあ、と楓は感心して聞いている。

乙矢は弓と矢をしまい、「ありがとうございます」と弓道着のまま出て行った。その顔は暗く、もやもやしたものを胸に抱えているようだった。乙矢の姿が見えなくなると、楓は国枝に聞いた。

「私、何か乙矢くんについて、まずいことを言ったのでしょうか？　乙矢くんの射、とてもいいと思っていますけど」

それを聞いて、国枝は微笑んだ。

「いえ、正直に話してくれて、乙矢くんも感謝してると思いますよ」

「だけど……」

自分の言葉を聞いて、乙矢はショックを受けたようだ。乙矢を貶めるようなことを口にしてしまったのではないだろうか、と楓は気にしている。

楓の想いを察したのか、国枝は優しい目をしたまま説明した。

「そろって弓を引く場合には大前のタイミングにみんなが合わせるものですが、一方で大前こそ続く人たちのことを把握しておかなければならない。双方がお互いのことを意識しあって、初めて三人が一体となるんです。あなたが焦った、ということは、大前があなたの歩く速度をコウリョ^dしていなかった、あなたのことが見えてなかった、ということなんです」

確かに、国枝とやった時のような安心感、一緒に弓を引いている、という充実した気持ちはなかった。乙矢に遅れまい、とするだけで精一杯だった。

「それに、射をする時には『中ててやろう』という意識を剥き出しにはいけません。そういう姿勢はミニクイ^eとされているんです」

「なぜですか？　弓を引く時は誰だつて中てよう、と思うんじゃないですか？」

楓の言葉に、国枝は再び微笑んだ。

「教本通りの答えで言うなら、的に囚われているのは美しくない、ということになります」
「教本ですか」

弓道会に入会した時、『弓道教本』があることを教えられた。全日本弓道連盟が作った、弓道の教科書のようなものだ。第一巻の射法篇^{へん}というものを購入するようになると言われ、母に頼んでネットで購入してもらった。だけど、写真が古めかしく、言葉も難しいので、楓はばらばらめくるだけで、ちゃんと読んではない。

「教本通りじゃないとダメなんですね」

「ええ。ですが、ただ教本に書かれているのを鵜呑みにして、それを形だけ真似するというのも、よくないことだと私は思います。」

教本は道しるべではありませんが、なぜそうなるのか、自分の射がどういうものかは、毎日修練して自分でみつけねばならない。

*ひじょう 畢 竟それが **5** 弓を引くことの意味だと私は思っています

「よく……わかりません」

だとしたら、別に乙矢が悪いわけではない、ということにならないだろうか。

「わからなくてもいいのです。いまわからなくても、いつかわかる時が来るかもしれない」

「ずっとわからないこともあるんですか？」

楓が聞くと、逆に国枝が問い返す。

「それは嫌ですか？」

「ええ」

楓がきつぱりと返事すると、国枝は破顔一笑した。

「わからないことの答えを探し続けることも、大事なことですよ。何もかも、簡単に答えがわかったら、つまらないじゃないですか」

(碧野 圭『凜として弓を引く』)

*大前 …… 一番最初に射る人。その立ち位置。

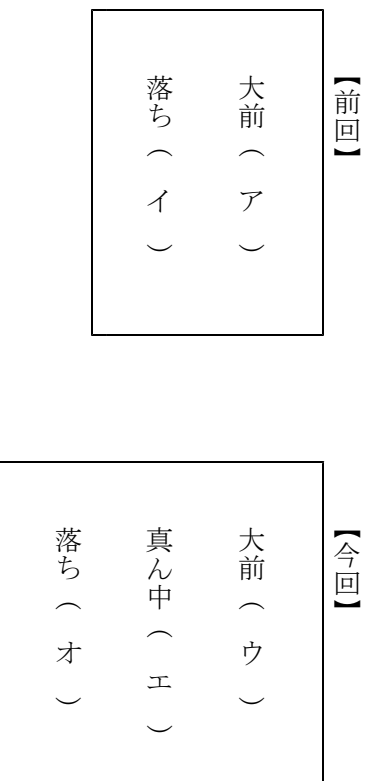
*跪坐 …… 両足をそろえたまま爪先立って膝をつかずして腰をおろした姿勢。

*矢取り …… 射場で放たれた矢を拾い集めること。

*畢竟 …… つまるところ。結局。

問一 二重傍線部 a 「ツト(める)」 b 「クモ(った)」 c 「精進」 d 「コウリョ」 e 「ミニク(い)」について、漢字は読みを答え、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 傍線部 1 「立ち位置」を図にすると、次のようになります。(ア)～(オ)は、それぞれ誰の立ち位置ですか。本文中から、名前を抜き出して答えなさい。



問三 傍線部 2 「楓は少し口ごもった。」の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア せっかく自分の意見を聞いてくれた国枝の期待に応えたい、と気負っている。

イ 乙矢のことを傷つけてしまうのではないか、と言葉にするのをためらっている。

ウ 考えてもいなかったことを突然聞かれ、自分の考えをまとめきれないでいる。

エ 自分が感じたことを、相手にうまく伝えることのできる言葉は何か考えている。

問四 国枝は、弓道の達人である。国枝が弓を引く描写の中で達人であることがわかる表現を、本文中から十五字以内で抜き出して答えなさい。(句読点や記号も一字に数える。以下の問いも同様。)

問五 傍線部3「あなたの射の欠点」とあるが、乙矢の「射の欠点」を二つあげなさい。本文中の語句を用いてそれぞれ二十字以上二十五字以内で答えなさい。

問六 傍線部4「国枝の言葉を噛みしめるように、乙矢は視線を下に向けている。」の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 国枝は自分を慰めてくれていただけだと失望している。
- イ 国枝は自分を理解してくれていないと憤慨している。
- ウ 国枝の言葉の意味をすっかり理解しようと考えている。
- エ 国枝の助言に心打たれ自分の至らなさを反省している。

問七 この文章を読んで、傍線部5「弓を引くことの意味」について、AさんとBさんが話をしています。後の問いに答えなさい。

- A 『弓を引くことの意味』について、国枝さんが話している内容がよくわからないのだけど、『弓を引くことの意味』は何だと国枝さんは言っているのかな。
- B 「(a) に練習するけれども、その意味や自分なりのやり方は自分自身が毎日弓を引く中で見つけなければいけないと言っているのだと思う。」
- A 「なるほど。それは、(b) だ。」
- B 「そう考えると弓道だけにあてはまることではなくて、いろいろなことに通じるね。まさに『(c) 』だ。」

1 (a) にあてはまる言葉を、本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

2 (b) にあてはまる内容として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 最初に拍子にはまらない「序」で始まり、中間は拍子にははまるけれどゆるやかな速度の「破」、最後の部分が序や破に比べると少し速いテンポの「急」である雅楽の「序・破・急」と同じね。
- イ まず師匠から教わった型を「守」るところから修業し、次に自分にあつたより良い型を探して既存の型を「破」り、最終的に型から「離」れて自由になる茶道の「守・破・離」と同じね。
- ウ 「序論」で何に着目しているのかを明らかにして、「本論」でどのような根拠をもとにしているかを述べ、「結論」で主張をまとめる文章の「序論・本論・結論」と同じね。
- エ まず不要な物を購入することを「断」ち、次に自分のものでいらないものを「捨」て、いつか使うかもという物に対する執着から「離」れるという、整理の「断・捨・離」と同じね。

3 (c) にあてはまる言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 白羽の矢が立つ
- イ 快刀乱麻を断つ
- ウ 一芸は道に通じる
- エ 釈迦しゃかに説法

次の文章の筆者は「ニセ科学」について検証し、三つのタイプに分けて説明しています。次は、その一つ目について述べた文章です。後の問いに答えなさい。

この第一種ニセ科学には、占いや超能力、あるいは疑似宗教と呼ぶべきものが属する。ここでいう疑似宗教というのは、宗教のようで宗教でないもの、すなわち宗教に似せた別の代物のことだ。このジャンルは一見すると、「ニセ科学」という科学的な分類には入らないと思うかもしれない。「A」、「なぜ怪しげな宗教に引張り込まれるか」という仕組みの部分に、実は科学的な領分が存在しているように、科学と関係があるのだ。

例えば、私たちには未来がどうなるのかわからない。わからないからこそ、不安におびえ、ゆらぎ、知る術を与えてくれるものを求めてしまう。また、自分ではどうすることもできない悲しみや苦しみがあったとき、その苦痛を払いのける方法を教えてくれるものにすがってしまう。占いやおみくじに頼る現象は、その典型的な例と言える。「B」、人によっては、占いやおみくじによって迷いを吹っ切って安心を得ることで前向きになれるというケースもあるから、個人の趣味レベルにとどまっているうちは問題ない。しかし、それが個人の枠をはみ出し、すべての人間に適用できると勘違いすることで、他人の運命や人生まで左右するようになってしまおうと大変危険である。

* 実は、冒頭に挙げた「血液型」の例もここに属する。結論から言えば、血液型は人間の性質を本質的に決めているものではない。これはさまざまな研究においてすでに明らかにされていることだ。実際、血液型で性格を気にするのは日本と韓国だけ。他の国々では話題にもならないし、そもそも人間をたった四種類に分類することなど不可能であるのは、自明の理^aである。ちなみに一般的には知られていないが、血液型というものは細かく分類すると、最低でも五〇種類にのぼる。本当に性格を決定づけるという科学的根拠が存在するなら、五〇種類に分けて説明していかなくはならないはずだ。つまり、簡略化すれば四種類に集約できるという側面が、占いに都合よく利用されているにすぎないのである。

こういう血液型占いをゲーム感覚で楽しんでいるうちはいい。しかし驚くべきことに、とある企業において、血液型に依じて社員を採用したり、社内のチーム編成を行うということが起きてしまった。血液型によって人を分類し排除するという、恐ろしくもバカげたことが、一部で実際に行われているのである。これは人間が持つ本来の可能性を摘み取ることにほかならない。血液型にかぎらず、名前も誕生日も生まれ年も、本人の力とは全く関係のないところで決まるものである。人生というものは、「C」¹。だから外側から勝手に貼られたレッテルなどまったく気にする必要などない。自分のこれまでの生き方を内側から省みるほうがよっぽど有益だ。

それから、いわゆる「超能力」というもの。オーラとかテレパシーといったものがその代表的な例といえる。さらに、気や霊といったものを信じる人もいる。また例えば、道具も何も使わずに遠方の人と会話ができる。これらはある意味、現代科学を否定するところに 端を発している^b。簡単に言えば、「すべてが科学で説明されているわけではないのだから、こういうことがあってもいいだろう」という主張である。つまりオーラやテレパシーの力を 標榜^cする人々は、科学を超えた「超科学」がそこに存在すると言いたいのだ。

ところが、実はそういった超科学の主唱者が述べている内容は、数々の実験や理論の積み重ねと裏打ちによってすでに解明されている 範疇^d のものばかりであり、その主張はすべて過不足なく否定されている。彼らは心や精神の世界が物質で表せないことを利用し、「未解明の科学」と称することで、現実世界から目を背けたいという人々の無意識の願望につけ入っているにすぎないのである。

そして、第一種ニセ科学の中でもとりわけ厄介なのが疑似宗教。誤解しないように言うておくが、これは宗教一般を指すものではない。本来の宗教というものは、心の悩みを受けとめ、いかに健全に生きるべきかということを教えてくれるものだ。ところが、中には「〇〇すれば金持ちになれるぞ」といった、物質的な利益に絡めて教義を説く怪しげなものがある。これが疑似宗教である。当然のことながら、本当の宗教というものは、物質的な利益とは無関係のもののはずだ。

この疑似宗教の問題は、現世の利益・不利益を振り回したり、「たたり」といった言葉を使って脅迫や洗脳を用いることで、信

奉を強要してしまう点にある。それがどれほど危険なことであるかは、君たちにも充分わかるだろう。

こうした「心のゆらぎ」につけ込むニセ科学に対抗するうえで、知っていて非常に役立つのが「平均への回帰の法則」だ。これは統計学的な現象としてきちんと認められているものだ。

人間の心も含め、この世の事象というものすべて、一定の安定した状態では進まない。上がったたり下がったり、山・谷・山・谷の波を繰り返しながら、平均のラインを常に上下している。例えば、学校のテストの得点というものを思い浮かべてほしい。平均の上だったり、下だったり、いつも同じ平均点を取るわけじゃない。問題が難しいときもあれば、易しいときもあるし、身体の調子のいいときもあるし、悪いときもある。そういうさまざまな要素を含みながら、上下を繰り返して、結局は平均の数字に回帰するのだ。実際に、中間試験で特別に高得点だった学生たちに注目して調べると、一般的に期末試験では中間試験のときよりは平均点により近いという結果になる。それは、中間試験で働いたさまざまな偶然が、期末試験では必ずしも働かないからだ。

君たちのご両親や学校の先生の中には、「褒めると成績が下がり、叱ると上がる」というジンクスを信じている人もいるかもしれないが、当然ながらこれは誤りである。褒める場合というのは、いつもの状態より上の成績を取った場合だと思われるが、平均回帰への法則に従えば、その次の成績は多かれ少なかれ以前よりも下がる場合が多い。ところが、この法則を知らないと、成績が下がったという現象を「褒める」という行為の結果だと誤解してしまうのだ。これは「叱る」場合も同じである。叱る場合というのは、いつもの状態より下の成績を取った場合なのだから、その次の成績は必ず上がることになる。

この点に留意しながら、今度は「幸運グッズ」と呼ばれるものについて考えてみよう。【 D 】
「ゆらぎ」というものがすべての人間に存在する以上、プラスの出来事もあればマイナスの出来事もある。プラスがあったときは足元をすくわれないように心を引き締め、マイナスがあったときは、やがてプラスに転じるまで頑張ればよい。良いことも悪いこともいつまでも続かないということを肝に銘じた上で、振り回されずに常に努力していれば、大きな「心のゆらぎ」につけ込まれてしまうこともない。つまり、第一種ニセ科学に騙されずに済むというわけだ。

(池内了『それは、本当に「科学」なの?』)

*実は、冒頭に挙げた … この章の冒頭で血液型による性格判断を「科学のようで科学でないもの」の例として挙げている。

*標榜 … 主義・主張などをはっきりと掲げ示すこと。

はんちゅう

*範疇 …

… 同じような性質のものが含まれる範囲。カテゴリー。

問一 二重傍線部 a 「自明の理」 b 「端を発している」の意味として最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

a 「自明の理」

- ア その人だけがよくわかっていて納得できない
- イ 一部の人だけが知っていて専門的である
- ウ 説明する必要がないほどはっきりしている
- エ 古くから言い習わされて多くの人が知っている

b 「端を発している」

- ア 結論がある
- イ きっかけがある
- ウ 根拠を持っている
- エ 手がかりがある

問二 空欄「A」「B」に入る最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア だから イ つまり ウ もちろん エ しかし

問三 空欄「C」に入る最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 巡り合わせや出会いがとても重要なもの
イ 他人の評価や周囲の評判に左右されるもの
ウ 本人がつくる将来像や夢でできるもの
エ 自分自身の努力や熱意によって決まるもの

問四 傍線部1『超能力』というものについて、次の文は超能力が第一種ニセ科学である理由を説明したものである。

- (①) (②) (③) に言葉を入れて文を完成させなさい。それぞれの () に示された字数で、本文中の語句を用いて答えなさい。(句読点や記号も一字に数える。以下の問いも同様。)

超能力は () ① 十〜十五字 () という考えに支えられているが、その内容はすべて () ② 十〜十五字 () いるものである。また超能力は人々の () ③ 二十五〜三十字 () いる。以上が理由である。

問五 傍線部2「平均への回帰の法則」について、次の文はその内容を説明したものである。(①) (②) (③) に言葉を入れて文を完成させなさい。それぞれの () に示された字数で、本文中の言葉を抜き出して答えなさい。

この世の事象すべては、() ① 十〜十五字 () しながら、() ② 五字以内 () に戻るといふこと。

問六 空欄「D」では「幸運グッズを買ったら、幸運が来た」という現象についての説明が述べられている。その内容を

ここまでの本文を踏まえて八十字以上百字以内で書きなさい。

次の文章は鎌倉時代に成立した「十訓抄」の一節です。後の問いに答えなさい。

ある人のいはく、「人は をこひねがふ べきなり」。

心士の願う

¹ 麻の中の蓬はためざるに、おのづから直し

力を加えなくとも 自然に

といふたとひあり。蓬は枝さし、直からぬ草なれども、麻に生ひまじりたれば、ゆがみてゆくべき道の

たこえ

伸ひ方は

混じって生えている

なきままに、心ならず、うるはしく生ひのぼるなり。心の悪しき人なれども、うるはしくうちある人の中に
ないので 不本意ながら まっすべに

きちんとしている

交はりぬれば、さすがかれこれをはばかりほどに、おのづから直しくなるなり。
交じっている やはりあれこれと気を遣ううちに

これによりて、良き友にあはむこと、² 経にも説かれ、文にもすすめたり。顔氏が家訓には、

出会つこと

経典

書物

中国の書物「顔氏家訓」には

与^ニ善 人^一居 如^レ入^ニ芝 蘭 之 室^一 久 而 自 芳 也

与^ニ悪 人^一居 如^レ入^ニ鮑 魚 之 肆^一 久 而 自 X 也

善人と居るは芝蘭の室に入るが如し

よい匂いの芝蘭の草の部屋に入ると同じだ

久しくして自づから芳しきなり
長くいれば 自然とよい匂いになる

悪人と居るは鮑魚の肆に入るが如し

生臭い干し魚の店に入ると同じだ

久しくして自づから X きなり
長くいれば 自然と

といへり。また、ある文には、

人の心は、水の入れものにしたがふがごとし。入れもの細ければ、すなはち細し。

そのま味

まろければ、すなはちまろくなる。心は朋友にならふ。いかがえらばざるべけん
丸ければ どうして選はないでいられようか

と書けり。また九条殿遺誠には、

九条殿に残された家訓

高声 悪 狂 の 人 に と も な ふ 事 と な か れ
大声を出して荒れ狂う人

と教へ給へり。
教えていらつしやる

かかれば、はかなくうちかたらはむ友なりとも、よくその人をえらばざらんし。
それゆえ 軽へ 話を交わすよしな友

問一 波線部「こひねがふ」を現代仮名遣いで書きなさい。

問二 傍線部1「麻の中の蓬」とあるが、この場合、麻と蓬は、それぞれ何のたとえか。本文中から、五字以上十字以内で抜き出して答えなさい。(句読点や記号も一字に数える。以下の問いも同様。)

問三 傍線部2「入れもの」とは、この場合、何のたとえか。本文中の言葉で答えなさい。

問四 空欄Xに入る最も適当な漢字を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 臭 イ 汚 ウ 怖 エ 固

問五 空欄には本文中の言葉が入ります。適当な言葉を十字以内で抜き出して答えなさい。

問六 生徒たちが、この文章を読んだ感想を話し合っています。本文の内容に対する感想として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

A 友達を選ぶときには、善人が悪人かにかかわらず、心のまっすぐな人を選ぶとよいとあって、人を善悪で分けないようにしようと思いました。

B 人は一緒にいる人の影響を受けやすく、大きな声ではっきり話す人となると元気になると書いてあって、自分もいつも元気でしょうと思いました。

C 心のねじまがっている人は、実は他人の影響を受けやすく、善人になる可能性が大きいと知り、可能性を信じて友達を選ぶようにしようと思いました。

D どんな人と友達になるかが自分の人生の成否を左右すると知り、他人に影響を受けない心が持てるよう自分自身を高めることが重要だと思いました。

E 心はとても柔軟で感化されやすく、一緒にいる人によって自分の心のありようも変わるとわかり、慎重に友達を選ぶ必要があると思いました。

国語 解答用紙

一

問一

| |
|----|
| a |
| める |
| b |
| った |
| c |
| d |
| e |
| い |

問二

| |
|---|
| ア |
| イ |
| ウ |
| エ |
| オ |

問三

| |
|----|
| 問四 |
|----|

問五

| |
|----|
| 問七 |
| 1 |
| 2 |
| 3 |

問六

| |
|----|
| 問七 |
| 1 |
| 2 |
| 3 |

問六

| |
|----|
| 問七 |
| 1 |
| 2 |
| 3 |

二

問一

| |
|----|
| a |
| b |
| 問二 |
| A |
| B |
| 問三 |

問四

| |
|----|
| ① |
| 問二 |
| A |
| B |
| 問三 |

問四

| |
|----|
| ② |
| 問二 |
| A |
| B |
| 問三 |

問四

| |
|----|
| ③ |
| 問二 |
| A |
| B |
| 問三 |

問五

| |
|----|
| ① |
| 問二 |
| A |
| B |
| 問三 |

問六

| |
|----|
| ② |
| 問二 |
| A |
| B |
| 問三 |

三

問一

| |
|----|
| 問二 |
| A |
| B |
| 問三 |

問二

| |
|---|
| 麻 |
| 蓬 |

問三

| |
|----|
| 問四 |
|----|

問五

| |
|----|
| 問六 |
|----|

| |
|------|
| 受験番号 |
| |

| |
|--|
| |
|--|

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |

| | |
|--|--|
| | |
| | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |

| | |
|--|--|
| | |
| | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |